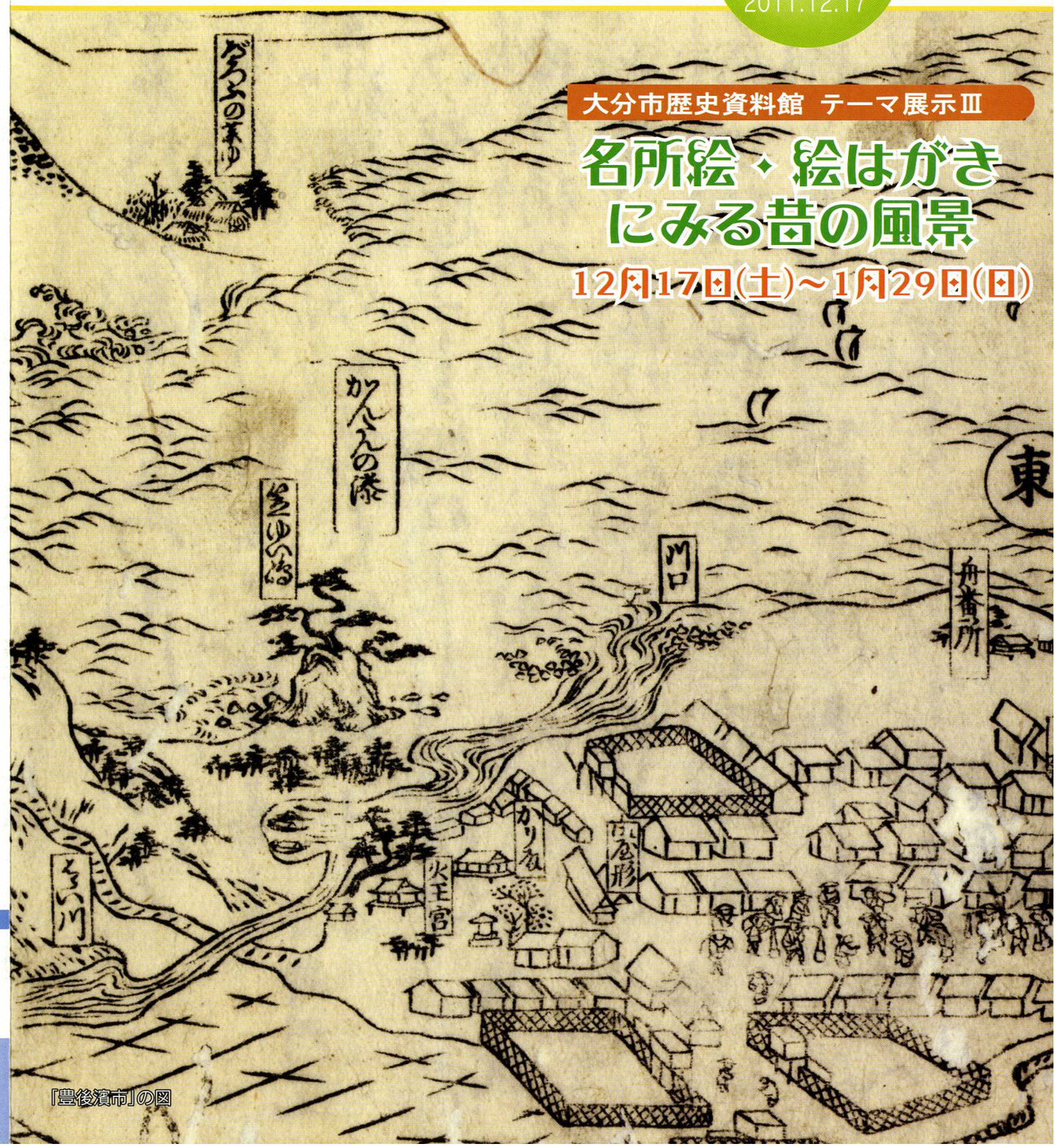
大分市歴史資料館ニュース

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

vol. 97
2011.12.17



トピックス　大分の君 飛鳥と豊後をつないだ人

特別展記念講演会

平成23年11月6日(日)、歴史資料館講座室にて、第30回特別展「大分の君－飛鳥と豊後をつないだ人」の記念講演会を開催しました。講師に大阪府立近つ飛鳥博物館館長の白石太一郎氏をお招きし、「終末期古墳のなかでの古宮古墳」の演題で約2時間ご講演いただきました。

講演では、古宮古墳の考え方と畿内の横口式石槨の中で、どのような位置付けにあるのかについての先生のお考えをお話していただきました。約30年ぶりに訪れた古宮古墳の思い出や概要、この古宮古墳のように、羨道(せんどう)よりも死者を埋葬する部分が非常に狭くなっている埋葬施設を「横口式石槨(せっかく)」と呼び、これより以前の「横穴式石室」との違いや「石槨」という名称についてご説明いただきました。

次に『日本書紀』に記されている「大分君恵尺(えさか)・稚臣(わかみ)」や、この2人が活躍した壬申の乱についてお話をしていただき、被葬者のわかる古墳が多くない中で、古宮古墳は被葬者がわかる古墳として高い評価を受け、さらに古墳の年代が限定できる資料としても非常に高く評価されていることを話されました。

畿内の「横口式石槨」のお話の中では、その分類や変遷について解説していただき、その中で古宮古墳が地方の特異な終末期古墳というだけでなく、日本の横口式石槨、終末期古墳の研究の中で、非常に重要な位置を占めていることを話され、みなさん興味深く聴いていました。

最後に大分市の古墳時代から飛鳥・奈良時代にかけての遺跡の概略を説明していただき、各時代を通じて遺跡の展開がわかる地域は、全国的にもほとんどなく、今後の研究に大いに期待していると締めくくられました。

当日は、雨にもかかわらず、131人もの方が講演を聞きに来られました。会場は満席となり、多数の方にホールの七重塔復元模型横に設置したモニターで講演を聴いていただくこととなり、関心の高さが伺えました。

講演の様子

満席の会場

会場外のモニター前の様子

インフォメーション　Information

ふれあい歴史体験講座

定員　各回70名程度(先着順)

時間　午前の部　9時30分～(約2時間)
午後の部　14時00分～(約2時間)

	実施日	内容	時間	材料費	受付開始日
第16回	12月23日(金)	和凧作り	午前・午後	200円	12月7日
第17回	1月28日(土)	勾玉作り	午前・午後	200円	1月6日
第18回	2月11日(土)	管玉・丸玉作り	午前のみ	260円	1月20日

応募　上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館：097-549-0880)

ミュージアム・シアター

実施日　〔●大人向け◎子ども向け〕

12月25日(日)　●鏝絵紀行 安心院町 [九州街道物語]
地図にみる大分の今と昔 [フレッシュ大分]
◎まんが日本昔ばなし
「うぐいす長者」「ミソサザイは鳥の王様」

1月22日(日)　●城のある風景 [フレッシュ大分]
明治・大正・昭和 [フレッシュ大分]
◎まんが日本昔ばなし
「カサ売りお花」「船幽霊」

時間　13時～14時

料金　無　料　※事前の申し込みは必要ありません。

テーマ展示解説講座

内容　講座室でテーマ展示Ⅲ「名所絵・絵はがきにみる昔の風景」について、スライドなどで解説した後、展示会場を案内します。

日時　1月22日(日)　14時～15時30分

参加費　無　料

※講座に参加した方は観覧料が無料になります。

休館日のお知らせ

歴史資料館は、年末年始の12月28日(水)から翌24年1月4日(水)まで休館いたします。

利用案内

■開館時間　9時から17時(入館は16時30分まで)
■休館日　月曜日　但し祝日の場合は開館
但し第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日
祝日の翌日　但し土・日曜の場合は開館
年末年始　12月28日～1月4日

■観覧料　大人200円(団体150円)　高校生100円(団体50円)
中学生以下　無料　※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。
※特別展開催中は別料金となる場合があります。

■交通機関
・JR久大本線
豊後国分駅下車 徒歩2分
・大分バス[国分新町ゆき]
歴史資料館入口下車 徒歩5分
・大分自動車道
大分I.C・光吉I.Cよりともに約15分

発行日：平成23年12月17日
発　行：大分市歴史資料館　〒870-0864 大分市大字国分960-1　TEL097-549-0880　Fax097-549-5766
※大分市ホームページの「観光・魅力＞歴史・文化財＞歴史・文化を学ぶ＞大分市歴史資料館」も併せてご覧下さい。
(http://www.city.oita.oita.jp/)

大分市歴史資料館　テーマ展示Ⅲ

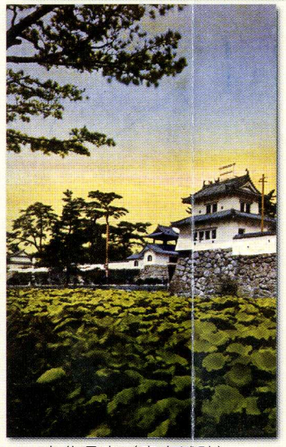
名所絵・絵はがきにみる昔の風景

会期：平成23年12月17日(土)～同24年1月29日(日)

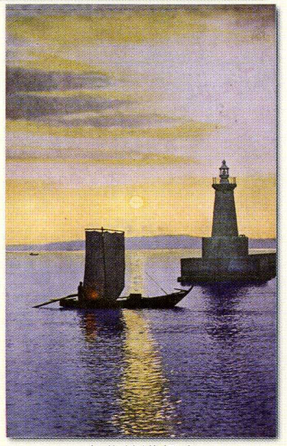
全国的に道路や宿所の整備が進み、人や物資の往来が頻繁になった江戸時代、伊勢参りや本寺参りなどの信仰を兼ねて、物見遊山といった各地の名所をめぐる庶民の旅行も盛んに行われるようになりました。この旅行ブームを背景に、今日の道路地図と観光案内を合わせた道中図や、観光地の景観を描いた名所絵などが数多く出版されました。その後、明治33年（1900）の郵便法の制定にともない、官製はがきに加えて、新たに私製の絵はがきが発行できるようになり、様々な宣伝や記念の絵はがきが市販されました。当初の絵はがきは、画家が絵を描いて作っていましたが、大正時代になると、各地の名所旧跡や町の光景などを撮った写真を元にした絵はがきが普及していきました。

本展示では、大分をはじめ日本各地の旅の土産品として作られた名所絵や絵はがきを通して、懐かしい昔の風景をご覧いただきます。

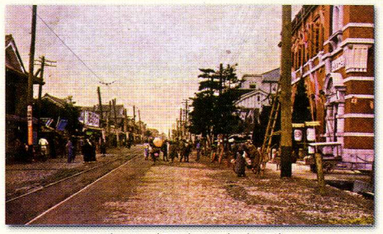
大正時代の絵はがきにみる大分の名勝(所)



大分県庁（府内城跡）
城跡の内堀は蓮池となり、初夏には淡紅の蓮の花で彩られた。老松が立つ城跡内には、大正10年（1921）赤甍の洋館の県庁舎が新築された。

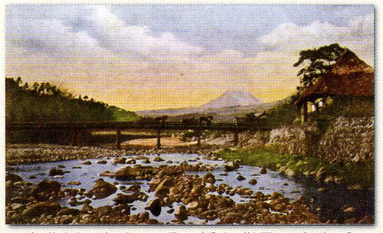


大分築港燈台
大正4年（1915）に改築された大分港（現西大分港）の燈台。同港の完成で、入港する和舟のほか、大型汽船の着岸も可能となった。



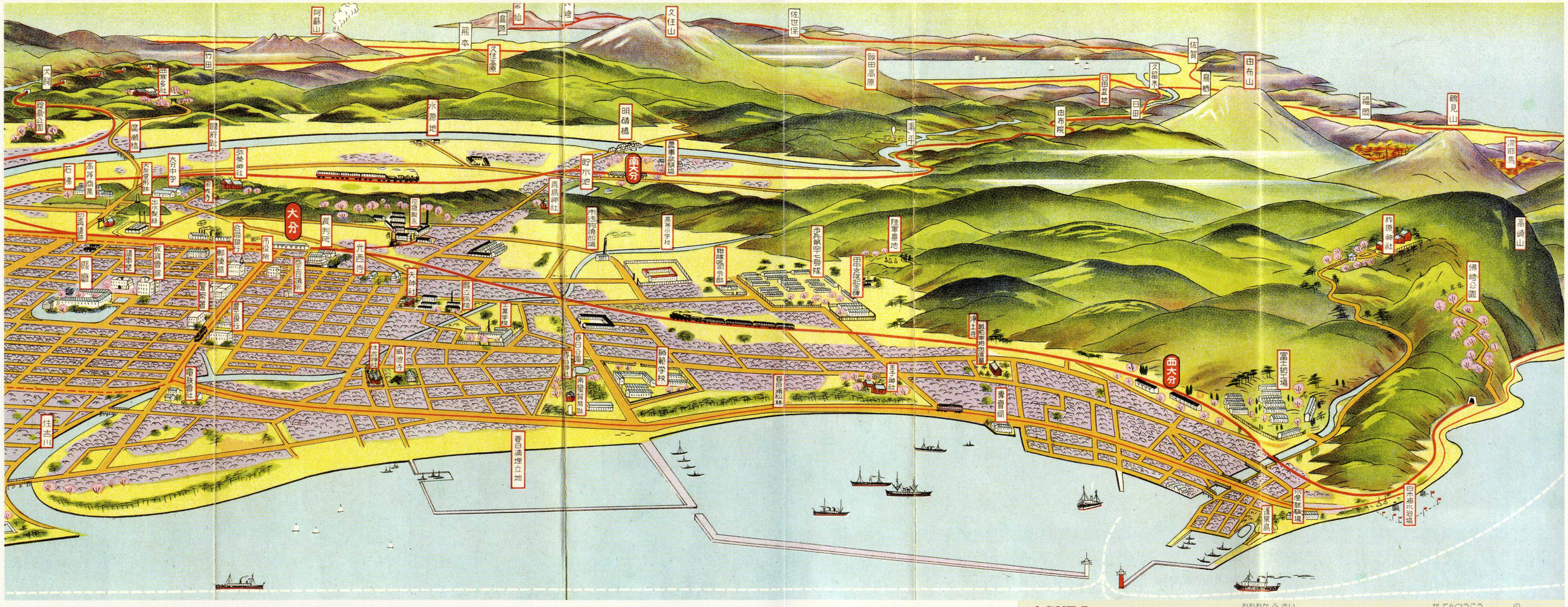
電車通（現在の中央通）
右の赤いレンガ造りの建物は、辰野金吾の設計によるもので、大正2年（1913）に完成した二十三銀行本店（現大分銀行赤レンガ館）。

春日浦の潮干狩
春の貝掘りで賑わった春日浦も、昭和9～同14年（1934～39）に行われた大分港の改修工事にともない埋め立てられた。



大分川に架かる明碩橋と背景の由布岳
明碩橋付近は由布・鶴見岳を望む景勝地で知られ、昭和5年（1930）同橋は近代的なアーチ式鉄橋に架け替えられた。

住吉川より新川を望む
左にみえる橋が、市街地の北新町から住吉町へ通じる場所に架けられた住吉橋。橋のたもとには運送用の川舟が繋留されている。



大分市鳥瞰図（部分）飛ぶ鳥の目線で大分市全景を描いた地図。昭和9年（1934）に大分市が発行したもので、本図裏には「観光名所」として、大分城跡、春日神社、万寿寺、南蛮貿易場跡、元町石仏、西山城大友屋形跡、長浜神社、弥栄神社、金剛宝戒寺、若一王子神社、浄土寺、電車通、竹町通、明碩橋などの名所や、柞原八幡（当時は八幡村）、西寒多神社（同じく東稙田村）、松栄山（同じく東大分村）の近郊の名所が紹介されており、観光案内図ともいうべき内容となっている。大正～昭和時代初年、鉄道や自動車の交通機関の発達による旅行ブームをうけて、こうした観光案内図が日本各地で作られた。

表紙紹介　享保12年（1727）に大岡普斎が著した諸国故事談『画典通考』に載せられている「豊後濱市」の図（部分）。本図は、柞原八幡宮の祭礼市として寛永年間（1624～43）に府内藩主日根野吉明が催した浜の市を、版行の細密画の名手と言われた大坂在住の狩野派の町絵師、橘守国が描いたもの。この市について、「西国、北国の廻船の輩、蟻の如くに聚りて売買限り無き事」と紹介されている。